

Y24a **科学ライブショー「ユニバース」の20年**

亀谷和久(東京理科大), 柴田吉輝(埼玉大), 半田利弘(鹿児島大), 戎崎俊一(理研), ほか科学ライブショー「ユニバース」関係者一同

科学ライブショー「ユニバース」は、科学技術館(東京都千代田区)において上演されている定期プログラムである。科学者が「案内役」として来場者の前に立ち、本物の科学の魅力を直接伝えることを特徴としており、1996年4月の初演以来、毎週土曜日の午後に2回ずつの上演を20年間続けてきた。これまでの上演回数は1900回以上を数え、来場者数はのべ9万人を超える。本講演では、20年間の活動の歩みと最近の展開を示したい。

ライブショーの会場は、当初の平面スクリーンと72席の客席を持つホールから、2008年に62席のフルデジタル立体ドームシアター「シンラドーム」へ改装された。ここに様々な現象を再現するリアルタイムシミュレーションや実写の映像を投映し、案内役は来場者と双方向コミュニケーションをしながらライブショーを進行する。その内容は、天文学をはじめ科学の様々な分野の話題を扱う。案内役は、自らの専門や興味に応じてユニバースのオリジナルコンテンツ群から数個を選び、米国の天文台とのインターネット中継で実施するライブ天体観測や科学の様々な分野の研究者等を招くゲストコーナーも加え、最新の科学成果を盛り込んだライブショーを構成する。運営を担う学生チーム「ちもんず」の活動もユニバースの特徴のひとつである。これまでに20以上の大学から100名以上が参加し、現役メンバーとして常に約20名が活躍している。彼らはライブショー本番中のPCの操作だけでなく運営全般を担当している。ライブショーで使用するソフトもちもんずや関係者によって開発されたものが多く、ライブショーで 사용되는ことで改善を重ねてきた。講演では、このように研究者、学生、科学館が協力して常に進化を続けてきた運営体制についても紹介する。